第３学年　音楽科学習指導案

場　所　３階音楽室
児　童　男１６名　女１２名　計２８名
指導者　小野寺　洋子

１　題材名

拍にのってリズムをかんじとろう
「ゆかいな木きん」小林純一作曲／作曲者不明／原由多加編曲（器楽）
「手拍子でリズム」（音楽づくり）

２　題材の指導構想

学習指導要領

表現（２）ア　器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴を捉えた演奏を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
イ（ア）曲想と音楽の構造との関わり
ウ（ウ）互いの楽器の音や副次的な旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能
表現（３）ア（イ）音を音楽へと構成することを通し，どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
イ（イ）音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
ウ（イ）音楽の仕組みを用いて，音楽をつくる技能
〔共通事項〕ア　リズム・拍　イ　反復・変化

子供の経験

リズム遊びは，幼児教育の中でも子供の発達を促す遊びとして取り入れられ，どの子も経験してきている。また，手遊び歌やわらべ歌などを通して，歌の中に手拍子を入れたり，歌に合わせて手や体を動かしたりする遊びの楽しさを感じている子が多い。拍にのることに対しては苦手な子供もいる。音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくることは初めての経験である。

子供の資質・能力

友達と考えたり，表現したりすることが楽しいと感じている子供が多い。また，音や音楽を直感的に捉え，その面白さやよさを見付けられる子供も多い。その一方で，音楽を形づくっている要素とその働きから音楽を捉え，根拠をもって考えたり，よりよい方法（表現）を判断したりする力は十分育っているとは言えない。また，思いや意図を相手に伝えることが苦手な子供も少なからずいる。

学習の系統性（学習前）

２年生
２拍子や３拍子を感じながら表現したり，聴いたりすることを楽しんできた。
歌に合わせてリズムを重ねたり，繰り返しを使って音楽をつくったりしてきた。

題材について

本題材は，リズムの特徴を感じ取りながら拍にのって表現する活動を通して，互いの音を合わせることやまとまりのある音楽をつくることに関心を高め，拍やリズムに対する感性を育みながら，音楽表現に必要な基礎的な能力を養うことをねらいとしている。

行進曲に合わせて歩いた時に足並みが揃うのは，一人一人が２拍子の特徴を感じ取り，音楽の「拍にのって」歩くことができているからである。「拍にのる」感覚を養うことが，互いの音がぴったり合う心地よさや拍子を感じて表現する楽しさをより実感することにつながると考える。

そこで，本題材では，共通事項〔拍〕〔リズム〕を要として，「器楽」と「音楽づくり」の分野を組み合わせ，様々な音楽活動を通して，本題材でねらう資質・能力の育成を図っていく。「器楽」の学習では，拍の流れにのって演奏することや，自分のパートのリズムの特徴を捉え，互いの音を合わせる楽しさを感じられるようにする。「音楽づくり」では，反復と変化を生かした音楽をつくることを通して，拍にのって表現する感覚を育てていく。友達と試行錯誤したり，他のグループがつくった音楽を聴いたりすることで，リズムの違いの面白さや表現の多様性を実感し，思いや意図をもって音や音楽に関わる子供の育成が図られると考える。

学習の系統性（学習後）

４年生
６拍子を感じながら歌ったり，拍にのって手拍子や歌と楽器を合わせて演奏したりする。
繰り返しや変化を使って，音の重なりを生かした言葉によるリズムアンサンブルをつくる。

３　指導にあたって

そこで，音や音楽に豊かに関わる子供を育むために，その実現に向けて，以下のような手立てをとる。

視点１　教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮

＜深い学びの姿＞
拍子やリズムの特徴などと曲想との関わりを理解し，その働きによる面白さやよさを見いだしながら，拍にのって互いの音を合わせる方法を考えて表現したり，音楽の仕組みを生かしてまとまりのある音楽をつくったりしている姿

〔図工科〕
複数の表現方法（画材や彩色の仕方）を比較することを通し，表現のよさや面白さを見いだしながら，どのように表すかを考える。（表現方法を生かして実際に試したり，板書に整理して見比べたりする場を設ける。）

〔国語科〕
複数の本を比較することを通し，その本のよさ（はじめて知った知識・考え方等）を見いだしながら，友達に紹介したい本を考えることができる。（紹介する視点に沿って内容を整理したり，選択したりする場を設ける。）

〔総合的な学習の時間〕
情報収集した複数の緑が丘の町の名人を比較することを通し，名人とつながるよさを見いだしながら，どの名人とつながりたいかを考える。（つながる視点に沿って交流したい名人を考えたり，板書に整理して見比べたりする場を設ける。）

〔音楽科〕
複数の表現を比較することを通し，表現のよさや面白さを見いだしながら，音楽の仕組みを生かしてどのように音楽で表すかを考えることができるようにする。（音楽の仕組みを生かして音を試しながら音楽へと構成したり，板書に整理して見比べたりする場を設ける。）

〔日常生活〕
複数のちょボラ活動を比較することを通し，思いやりの気持ちや誰かのために働くよさを見いだしながら，自分の活動を考える。（ちょボラ活動の定義に沿った取組かを考えたり，板書に整理して見比べたりする場を設ける。）

視点２　深い学びの実現に向かう題材構成

・　題材を通して，互いの音がぴったり合う心地よさや拍にのって表現する楽しさを実感しながら，他者と思いや意図を伝え合い，リズムの特徴や音楽の仕組みを生かして表現していくことができるように，共通事項〔拍〕〔リズム〕を要として，「器楽」と「音楽づくり」の分野を組み合わせた題材を構成する。

・　拍にのったり，拍子を感じたりしながら表現することへの関心や意欲を高めることができるよう，題材のはじめに，「この曲は，何拍子でしょうか。」と問うたり，既習（２拍子と３拍子，拍にのる）を振り返ったりする場を設ける。拍にのる活動の中で，拍子をつくったり，拍子を生かして既習曲を歌い比べたりすることで，「拍子を感じて表現すると楽しい。」「いい感じ。」という感覚をもてるようにしたい。

・　拍子やリズムの特徴などと曲想との関わりを理解し，その働きによる面白さやよさを見いだしながら，拍にのって互いの音を合わせる方法を考えて表現したり，仕組みを生かしてまとまりのある音楽をつくったりしていくことができるように，どのように拍子やリズムの特徴と曲想とが関わっているかや，どのように音楽で表すか等について，考える場面を位置付ける。

・　学習したことに関連する音楽が生活や社会の中にあることを気付いたり，生活や社会の中の音楽の役割を考えたりすることができるように，スポーツやコンサート等における手拍子による表現を提示する。

・　学んだことを自覚したり，獲得した知識や技能を次の学びにつなげる意識を高めたりできるように，題材の過程や終末において，振り返りや価値付けの場を設定する。

視点３　単位時間の考える活動の充実

・　自分事の問いをもって音や音楽と関わっていくことができるように，音楽との出会いを工夫したり，振り返りを生かしたりする中で，子供の音楽に対する気付きや問い等をもとに課題を設定したり，学習の見通しを立てたりする。

・　拍子や旋律の特徴を捉えたり，音楽の仕組みを使って音を音楽に構成したりできるよう，音や音楽を視覚化する手立て（図に表す・楽譜を用いる・リズムカードを活用する等）を講じる。

・　拍にのったり，拍子を感じて表現したりするよさや楽しさを実感できるよう，他者と課題を解決する方法を考えたり，音楽や言葉を通してコミュニケーションを図りながら共有・共感したりする場を位置付けたりする。

・　グループや個人でつくった応援リズムに対する思いを表出したり，音楽の特徴を自覚したりできるよう，「おすすめはどこか。」等，つくった音楽のよさや特徴に着目する発問を行う。

・　音楽の仕組みを使って表現しながら他者と思いや意図を伝え合い，実際に音で試したり，聴いたりしながらつくり出した「応援リズム」や学び方のよさを，教師から意図的に価値付ける。

４　題材の指導計画

（１）目標

・　拍子やリズムの特徴などと曲想との関わりに気付き，拍にのって表現する技能や，反復や変化を用いてまとまりのあるリズムをつくる技能を身に付ける。　【知識及び技能】

・　拍子やリズム，旋律の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え，旋律の特徴を捉えた表現を工夫したり音楽の仕組みを生かしたりすることを通し，どのように演奏するか，まとまりを意識したリズムをつくるかについて思いや意図をもつ。　【思考力，判断力，表現力等】

・　拍子やリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取り，それらを生かして表現したり，主体的・協働的に器楽や音楽づくりの学習に取り組んだりする。　【学びに向かう力，人間性等】

（２）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　拍子やリズム，旋律と曲想との関わりに気付いている。 ②　２拍子を感じながら自分の旋律を演奏したり，他のパートの旋律を聴きながら，自分の音を合わせて演奏したりしている。 ③　即興でつくった音楽を比較しながら考えることを通して，四分音符と八分音符の組み合わせが生み出すリズムの特徴や面白さに気付き，反復と変化を生かしてまとまりのある音楽をつくっている。	①　拍子とリズム，旋律と曲想とを関連付けて考えることを通し，旋律の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて，思いや意図をもっている。 ②　リズムの特徴と音楽の仕組みを関連付けて考えることを通し，反復と変化を生かし，どのようなまとまりのある音楽をつくるかについて，思いや意図をもっている。	①　拍子やリズムの特徴が生み出すよさや面白さを感じ取り，それらを生かして表現したり，他者と協働して演奏の仕方や応援リズムのつくり方を考え，試しながら進んで音楽活動に取り組んだりしている。

（３）指導計画（５時間）

段階	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準（評価方法）
第一次	1　「ゆかいな木きん」を聴き，好きなところや気に入ったところを出し合う。 2　「ゆかいな木きん」の主旋律を歌い，歌詞が表す様子やリズムの特徴を捉える。 3　何拍子の曲かを予想し，拍や拍子について２年生で学習したことを振り返る。 4　拍や拍子で遊ぶ。 5　２拍子を感じて,「ゆかいな木きん」の主旋律を手拍子や歌で表現する。	・　動物たちの様子や気持ちを想像できるように，歌詞からイメージを広げたり，歌詞とリズムの特徴を関連付けて考えたりする場を設ける。 ・　拍や拍子に対する問いをもてるように,「この曲は何拍子でしょうか。」と問う。 ・　既習を振り返られるよう，２年生の学習を生かして拍や拍子（２拍子・３拍子）で遊んだり，２拍子を感じて表現したりする場を設ける。	関連付け 比較	【態①】 →発言，観察 プリント 【知①】 →発言， プリント
	1　拍にのってリズム遊びをする。 2　「ゆかいな木きん」の主旋律に副次的な旋律と低音パートを加えた音楽を提示し，感じたことや気付いたことを出し合う。 3　手拍子や階名唱を通して，副次的な旋律と低音パートのリズムの特徴を捉える。 4　２拍子を感じながら，主旋律に副次的な旋律と低音パートを重ねて演奏する。	・　主旋律に他のパートが加わる演奏の楽しさを感じられるように，副次的な旋律と低音を加えた音楽を提示する。 ・　リズムの特徴を生かした演奏の仕方を考えられるように，楽譜をもとに手拍子や階名唱をしたり，副次的な旋律と低音の旋律を比較したりすることを促す。 ・　２拍子を生かして演奏するよさや面白さを感じられるように，２拍子を生かしたときとそうでないときの表現を比較する場を設ける。	比較	【思①】 →発言，観察 プリント
	1　拍にのってリズム遊びをする。 2　挑戦したい旋律を選び，リズムの特徴を生かして演奏する。 3　３つのパートを合わせて演奏する。 4　課題を出し合い，３つのパートがぴったり合う方法を試しながら，拍にのって演奏を楽しむ。 5　学習を振り返る。	・　演奏に対する意欲を高めるため，挑戦したい旋律を自己選択する場を設ける。 ・　パートを合わせて演奏する際のポイントを捉えられるよう，解決方法を試したり，モデルと実際の演奏を聴き比べたりすることを促す。 ・　２拍子にのって演奏するよさや楽しさを共有できるよう，体で拍を感じながら演奏している友達を紹介することを促したり，少人数での演奏を聴いたりする場を設ける。	関連付け 比較	【知②】 →演奏，発言 プリント
第二次	1　拍にのってリズム遊びをする。 2　手拍子の応援リズムについて知ったり，音楽の仕組みを捉えたりする。 3　音楽の仕組みを生かして，応援リズムをつくる。　（全体→ペア） 4　つくった「応援リズム」をつなげて楽しむ。 （本時）	・　応援リズムへの興味・関心を高め，音楽をつくることへの思いをもつことができるよう，三三七拍子を提示し，どこで使われている音楽かを予想する場を設ける。 ・　リズムの特徴を比較しながら音楽の仕組みを生かして応援リズムをつくることができるよう，リズムカードを操作し，ペアで音を試しながら音楽へ構成するように促す。	比較	【知③】 →リズムボード，発言 プリント
	1　即興でつくった応援リズムを出し合い，それぞれの音楽の仕組みを捉える。 2　音楽の仕組みを生かし，自分の応援リズムをつくる。 3　班で，全体のリズムと個人のリズムのつなぎ方を考える。 4　班ごとに発表し合う。 5　題材全体の学習を振り返る。 6　「手拍子の花束」を紹介する。	・　音楽の仕組みを捉えられるよう，前時つくった応援リズムを比較する場を設ける。 ・　思いや意図をもって自分の応援リズムをつくることができるよう，みんなで見付けた音楽の仕組みを試しながら音楽をつくるように促す。 ・　拍にのったり，リズムの特徴や音楽の仕組みを生かしたりして表現する過程を通して学んだことを自覚できるよう，題材全体を振り返る場を設ける。	比較 関連付け	【思②】 →演奏，発言 プリント

５　本時の指導計画

（１）目標

つくった音楽を比較しながら考えることを通し，四分音符と八分音符の組み合わせが生み出すリズムの特徴や面白さに気付き，反復と変化を生かしてまとまりのある音楽をつくる技能を身に付ける。

【知識及び技能】

（２）評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
つくった音楽を比較しながら考えることを通して，四分音符と八分音符の組み合わせによりリズムの特徴が生まれることに気付き，反復と変化を生かしてまとまりのある音楽をつくっている。 ［知識・技能］	「どの音符を使いたいか。」「組み合わせにしたいか。」と問うたり，リズムカードを操作しながら一緒に考えたりする。 教師からつくっている音楽の特徴やよさを伝える。

（３）展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援（◇評価）	資料等
導入（８分）	１　拍にのってリズム遊びをする。 ２　学習課題を把握する。 （１）手拍子の応援を聴く。 （くりかえしと変化）を使って，おうえんのリズムをつくろう。	・　拍にのってリズムを感じる楽しさを感じることができるように，リズムのまねっこ遊びを行う。 手立て① 応援リズムへの興味・関心を高め，音楽をつくることへの思いをもつことができるよう，三三七拍子を提示し，どこで使われている音楽かを予想する場を設ける。	リズムボックス
展開（３２分）	３　「応援のリズム」をつくる見通しをもつ。 （１）手拍子の応援について知る。 ・みんなで合わせてたたきやすい。 ・リズムを組み合わせ，特徴を出せる。 （２）「応援のリズム」の仕組みを捉える。 ※音楽の仕組み 繰り返し（小さなまとまり）と 変化（大きなまとまり） １・２・４小節目の３拍目は♩ １・２・４小節の４拍目は𝄽 ４　「応援のリズム」をつくる。 （１）全体でつくる。 ・音楽の仕組みを生かしてリズムカードを組み合わせる。 ・リズムをたたく。 ・他の組み合わせを試す。（変える） ・気に入った応援リズムを決める。 （２）ペアでつくる。 ５　つくった「応援リズム」をつなげて楽しむ。	・　「応援リズム」が広まっている訳を捉えられるよう，コロナ禍の工夫として，色々な場面で使われていることや，誰でも応援できるように分かりやすく作られていることを伝える。 ・　「応援リズム」の音楽の仕組みを捉えることができるように，「どのような特徴があるでしょうか。」と問うたり，板書に示したりする。 ・　「応援のリズム」のつくり方を捉えることができるよう，音符を提示したり，実際に操作して音で確かめたりする場を設ける。 手立て② ・　リズムの特徴を比較しながら音楽の仕組みを生かして応援リズムをつくることができるよう，リズムカードを操作し，ペアで音を試しながら音楽へと構成するように促す。 ・　思いや意図を伝え合い，音で試すことを繰り返しながら音楽をつくるよさを全体に広げるため，そのような学び方をしている子供を価値付ける。 **◇　つくった音楽を比較しながら考えることを通して，四分音符と八分音符の組み合わせによりリズムの特徴が生まれることに気付き，反復と変化を生かしてまとまりのある音楽をつくっている。** **【知③→発言，リズムボード】** ・　「応援リズム」をつくったよさを体感するため，つくった「応援リズム」と全体の共通リズムをつないで拍にのって表現する場を設ける。	リズムの表 リズムカード リズムカード ホワイトボード
まとめ（５分）	６　学習を振り返る。 ・　繰り返しと変化を使うと自分たちでも応援のリズムをつくることができることが分かりました。友達と一緒に試しながらリズムをつくることができたことが楽しかったです。 ・　繰り返しと変化をつかったり，どう音符を組み合わせるとよいかを考えたりすることが大切だと思いました。みんなとつくったリズムをつなげたら，クラスの応援みたいになって楽しかったです。	・　学習したことや学び方のよさを自覚するため，「分かったことや大切だと思ったこと」と「楽しかったこと」を視点として，振り返るように促す。 **◇　四分音符と八分音符の組み合わせによりリズムの特徴が生まれることや繰り返しと反復を使うとまとまりのある音楽をつくることができることを理解している。　【知③→発言，プリント】**	